

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
アドバンスレッスン2-a-Ba											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	橋本佳紀			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
この科目を受講する学生は、ベースという楽器の特性や演奏の仕方を理解し、音楽の中でベースラインを自由に作れるようになることを目指す。同時にコード理論・構成音を把握した上で対応できるスケールを使用しラインを構築できるようになることを目的とする。基礎的な理論・技術を再確認し、フィジカルなトレーニングで身に付けたテクニックを最大限に引き出せるように蓄積したものを反映できるようにしていく。卒業ライブでの成果を上げることも目的の1つである。											
到達目標											
基礎的な演奏能力をしっかりと身に付けること。また各種イベント、Real Dreams、卒業ライブ、外部オーディション等に対応できるように知識と技術を向上させることを目標とする。 また様々なジャンルに対応できるテクニックを習得し卒業後も幅広く活動できる能力を身に付けることも目標である。 技術と知識は表裏一体であることを重んじていく事が技術向上の最大のポイントである。											
授業方法											
この授業では、基本的なリズムやビートなどベーシストにとって重要な概念の理解、音楽理論の理解、演奏能力の向上を目指し、譜面によるエクササイズとそのエクササイズによる練習曲を交互に行っていく。 また楽曲分析を行い、適切な音選びが行えるように指導していく。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。配布資料は毎回持参、毎回のレッスンにて習得したテクニックは反復練習を欠かさず行う事。フィジカルなトレーニングがメインになるので体調管理も必要である。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	大きなビート小さなビートの共存についての理解										
第2回	細かいフレーズを丁寧に弾く										
第3回	細かいフレーズと大きなビート感を意識して弾く										
第4回	ベースラインの全体の構成を意識して弾く										
第5回	グルーブ感を意識し全体を弾いていく										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
アドバンスレッスン2-a-Ba	
第6回	コード進行とスケールを理解する
第7回	16ビートのクロマティックフレーズの正確な演奏
第8回	クロマティックフレーズとアルペジオフレーズを正確に弾く
第9回	全体を正確に弾く
第10回	ジャズ特有のコード進行の理解
第11回	ひとつひとつの音を、コード、スケールとの対応を考えて弾く
第12回	細かな音符を正確に弾く
第13回	難しいポジション、ストレッチをゆっくり正確に弾いていく
第14回	テンポを少しずつ上げて弾いていく
第15回	集中力を維持し全体を弾き切る

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
アドバンスレッスン2-a-Dr											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	堀越彰			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
一年次に習得した知識・実力をベースにしつつ、改めてドラムを演奏する上での基本的なグリップとフォーム、フットペダルの踏み方と足の使い方の再考・見直しからスタートし、基礎ルーディメンツの応用と実践、基本的なリズムワークをレクチャーして行くことで、ドラマーとしての総合的なテクニック（スティック&ペダルワーク）の向上を計ります。											
到達目標											
多種多様あらゆるジャンルの音楽スタイルを学び、楽しみながらドラムをプレイすることでの自己表現（タイム&タッチ&トーンを意識しつつ）が出来る様に学生を育成、指導して行きます。音楽は歌う人と音を奏でる人同志の合奏であるという意識を持ち、ただテクニックに頼るのではなく、ドラムを通して音楽の中でのコミュニケーション（会話）能力を高めていく授業を目指します。											
授業方法											
この授業は個人マンツーマンの形ではなくグルーブレッスンの形態で行います。学生同士お互いの得意;不得意、また各々のキャラクターと魅力的な部分をお互いにリスペクト・理解し合う事の大切さ、それをどのように学生に伝えていくかを意識しながら授業を進めます。授業を通して、単にテクニック面だけではなく、音楽に真摯に向き合い、音楽を生かすプレイ&アプローチの出来るミュージシャンの育成を目指します。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グルーブワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では学生間または講師と学生のコミュニケーションを重視します。リハーサル・本番など実際の現場の観点から、授業スタジオ内の私語などには丁寧に注意・説明し対応します。単に授業に出席するのではなく、実現場を前提としたマナー、ミュージシャンシップを意識する。各学生とも卒業後に実現場、実社会で起こり展開して行く様々な事々に、自分なりのヴィジョンを持ちながら対処し進めて行けるように指導・応援して行きます。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	ダブルストローク・ロール系：フレージング、リズムワークへの応用										
第2回	シングル&ダブルパラディドル系：フレージング、リズムワークへの応用										
第3回	フラム系：フレージング、リズムワークへの応用										
第4回	ラフ&ドラッグ系：フレージング、リズムワークへの応用										
第5回	ロック、ポップス系フィール										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
アドバンスレッスン2-a-Dr	
第6回	ジャズ、スウィング系フィール
第7回	サンバ、ラテン系フィール
第8回	右足&左足のペダルワークのバランス、トレーニングの実践
第9回	ツーバス、(ツインペダル) 手足のコンビネーション：フレージング編
第10回	ツーバス、(ツインペダル) 手足のコンビネーション：リズムワーク編
第11回	国内のドラマー、アーティストの名演&名フレーズの検証、レクチャー
第12回	海外のドラマー、アーティストの名演&名フレーズの検証、レクチャー
第13回	各学生、各自自分の魅力（アーティスト性）を意識、表現することの大事性
第14回	楽曲に合わせてのデモ演奏（オリジナル、コピー曲どちらでの可）
第15回	2年次全体のまとめ

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
アドバンスレッスン2-a-Gt											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	篠崎保			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
この科目を受講する学生は、企画・制作・販売等がボーダレスな今の音楽業界において、ギタリストとしての多角な視点での音楽力を養うことを目的とする。ギタリストとしてのテクニック、知識、スキルの習得を目的とするが、音楽以外の情報もレッスン内で情報提供を行う。ギタリストとしての仕事のみならず、自分の周りの音楽家の仕事についても理解を深める。											
到達目標											
プロギタリストとして必要な専門知識をトータルで学ぶと同時に、あらゆるジャンルの音楽を通して、より実践的な演奏スタイルを構築する。プロギタリストとして演奏力を高めるには、演奏練習だけでは到達できません。演奏に付随する理論、知識、経験など総合的に身につけることにより、自らのプレイが変化していきます。ギターを中心に、周辺の楽器、または、業界の情報にも興味を持つことを目標としている。											
授業方法											
この授業では、読譜、各スケールに準じたエチュード、コードヴォイシング、イヤートレーニング、リズムトレーニングなどを相対的に学ぶと共に、あらゆるジャンルの楽曲に触れ、その演奏スタイルや表現力を養う。メトロノームやバックギトラック、予め用意した課題曲やマテリアル等を活用した実技レッスン。なお読譜、リズムトレーニングは随時授業内で行っていく。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、テクニックの向上を図ることだけを目的とせず、ギタリストとして何を求められているのか？を常に模索できるような音楽的視点に基づいた俯瞰力にも注目する。理由のない遅刻・欠席は認めない。また学生間、講師と学生とのコミュニケーション力向上のために、なるべく自己から発言する機会を増やして行く。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	ペンタトニックスケールの応用 その1										
第2回	ペンタトニックスケールの応用 その2										
第3回	ブローケンコードの活用 その1										
第4回	ブローケンコードの活用 その2										
第5回	アッパーストラクチャーフレージング その1										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース	
アドバンスレッスン2-a-Gt	
第6回	アッパーストラクチャーフレージング その2
第7回	表コード、裏コードのアイデア その1
第8回	表コード、裏コードのアイデア その2
第9回	メロディノートを活かしたコードボイシング その1
第10回	メロディノートを活かしたコードボイシング その2
第11回	課題曲①
第12回	課題曲②
第13回	課題曲③
第14回	課題曲④
第15回	全体のまとめ

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
アドバンスレッスン2-a-Key											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	杉山泰			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
この科目を受講する学生は、ピアノを中心としたキーボード全般をプレイする上での様々なテクニックを、バランス良く身につけていくことにより、学内、学外での音楽活動、ライブ、レコーディングになどの現場に於いて、存分に能力を発揮できるよう、しっかりと実力を身につけていくことを目標としている。											
到達目標											
この科目では、自分の得意なジャンル、スタイルだけでなく、現場での様々なリクエストに対応できるように、柔軟な姿勢とオープンマインドで音楽に取り組むことができるように日頃から練習に取り組むことを習慣づけたい。苦手なことでも、あきらめずになんとか工夫して乗り切れるだけのタフな精神力で、卒業後現場で活躍できるようにしっかりと準備していくことを目標とする。											
授業方法											
この授業では、一つ一つの課題に丁寧に向き合い、しっかりと復習することが大切です。個人のスキルを上げていく授業なので、授業以外の時間でしっかりと練習をすることが、授業の効果をより高めることになります。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
毎日の練習を欠かさず取り組むよう、課題を丁寧に理解し、一つ一つを丁寧に練習する。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	Back at the chicken shack										
第2回	Junco Partner										
第3回	Tilt a Whirl										
第4回	Texas Shuffle										
第5回	Hey Bartender										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース	
アドバンスレッスン2-a-Key	
第6回	NewOrleans
第7回	それぞれの課題曲を演奏し、ブルーススケール・コードの確認
第8回	右手パート とテーマの確認
第9回	左手パートと終止形、構成のアナリゼ
第10回	両手
第11回	右手パート とテーマの確認
第12回	左手パートと終止形、構成のアナリゼ
第13回	両手
第14回	パッハインベンション 課題曲の最終確認
第15回	課題曲の発表

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
アドバンスレッスン2-b-B a											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	橋本佳紀			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
臨時記号や調合などの基礎知識はもちろん、自身の楽器の表現可能音域などをしっかりと把握していく。また楽曲の構成など全体が見渡せるようにしていくと同時にアンサンブルにおいて自分がどのような演奏をするのが良いかを感じ取ってもらう。リードシート、実音記譜譜面、マスターリズム譜等、プロフェッショナルが現場で使用する譜面を用いて現場対応がすぐにできることを最大限の目的とする。ポピュラー音楽に特化したものだけではなく、幅広いジャンルに対応できるようになることが重要である。											
到達目標											
譜面をしっかりと読むと同時に様々なジャンルの音楽と接し、譜面にある必要最低限の情報からの表現力の幅を広げていく。特にコードネームとハーモニックリズムのみのリードシートからの楽曲の理解度を深められるようになることを目標とする。現場対応の譜面を使用することにより、卒業後もセッションサンサンプルで対応できる読譜力を身に付けることが重要である。											
授業方法											
課題とする音源・譜面から構成などを説明。また、ジャンルの違いによる演奏のアプローチについても解説。フレーズの音楽的分析、先人たちの有名フレーズを習得し、さらに発展させる作業も行う。読譜と累積した（聞いて習得したフレーズ）をオリジナル楽曲に反映させていくことも行う。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
五線紙は必ず用意し、常にメモは取ること。第三者が見てすぐに理解できるような明確な表記を心がける。。日々の反復練習を欠かさず行う事。配布資料・譜面は毎回必ず持参すること。興味のあるフレーズは記録すること。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	調号によるフレットボードの限界値を理解していく										
第2回	アーティキュレーションを主体とした表現力をトレーニングする										
第3回	リズム譜を用いて多種のリズムを演奏しパターンを把握する										
第4回	各種反復記号についての理解										
第5回	既存曲を用い、反復記号を読み解く										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
アドバンスレッスン2-b-B a	
第6回	既存曲を用い、より複雑な反復記号を読み解く
第7回	コードネームから使用可能な音を把握する
第8回	分数コードなどより複雑なコードから使用可能な音を把握する
第9回	さまざまな音楽ジャンルにおける演奏の仕方を考える
第10回	既存曲から、さまざまな音楽ジャンルにおける演奏を追求する
第11回	既存曲を用い、どのように表記すれば簡潔かを考える
第12回	既存曲を用い、どのように表記すれば第三者が理解し易いかを考える
第13回	楽曲構成の理解とダイナミクスのコントロールを把握する
第14回	複雑なコード進行におけるスケールの理解、解釈
第15回	全体の総まとめ

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
アドバンスレッスン2-b-D r											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	堀越彰			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。 他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
配布されたリードシートや楽譜を読みながら演奏する。 またそれらが音楽的な表現で演奏出来る事を目的とします。											
到達目標											
Voアンサンブルやインストアンサンブル等の楽譜やリードシートを音楽的解釈を持って演奏する事。 また、それらを暗譜すること。 1 年次よりも高度な表現で演奏。											
授業方法											
次の時限に行われるVoアンサンブルの授業の楽曲を確認しつつ、 その曲で使われるであろうリズムパターンやフレーズを演奏する。 メトロノームや音源を使い、音符休符、テンポ、ダイナミクス等、音楽的表現の練習。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
遅刻はしない。迅速なドラムセッティングが出来るよう心掛ける。会話してるとき等にも無駄な楽器の音を出さない。 理解出来なかった事は質問する。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	前期前半の復習、バリエーション										
第2回	前期前半の復習、バリエーション										
第3回	各パターン練習										
第4回	アンサンブル時のダイナミクス、フィーリング等の解釈										
第5回	各パターン練習										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
アドバンスレッスン2-b-D r	
第6回	アンサンブル時のダイナミクス、フィーリング等の解釈
第7回	各パターン練習
第8回	アンサンブル時のダイナミクス、フィーリング等の解釈
第9回	各パターン練習
第10回	アンサンブル時のダイナミクス、フィーリング等の解釈
第11回	各パターン練習
第12回	4beatの理解
第13回	楽曲演奏、4バース、8バース
第14回	後期まとめ
第15回	リーディングテスト

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
アドバンスレッスン2-b-G t											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	篠崎保			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
スコアリーディング向上、アンサンブル向上、各パート楽曲に合わせアンサンブルを実践しながらスキルを向上する授業。奏でているフレーズのリズム、音符の長さ、表現方法など意識できるようにする。他の楽器と合わせる時には、全員がリードスコアを読み、小節の進行、リビートマークなどの臨時記号に対応できる現場能力を育成する。各パートと合わせることで、自分以外の楽器への理解も深まることを目的としている。											
到達目標											
3週間に1回、全コースとアンサブルの授業を行う。同じ楽曲であるが、さまざまなプレイヤーと合わせる事で、現場への対応力を養う。同一譜面を読んでも、プレイヤーによって奏でるフレーズは十人十色であることを知る。その中で自分の個性を発揮できる経験と知識、スキルを得ることを目標とする。この授業はプレイヤーコース内のコミュニケーションを図る上でも重要な授業であり、コミュニケーションがスムーズなセッションほどクオリティーがあがることも経験として知る授業となっている。											
授業方法											
この授業では、3週分使い2曲を仕込む。各パート1週目男子曲、2週目女子曲（入れ替わり可能性有り）3週目全体合わせとする。3週目にはライブ形式で演奏を行い。演奏者ではないプレイヤーは客席で演奏を視聴し、演奏者たちにコメントをする。即時にフィードバックが帰ってくる授業。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、全ての授業を出席しなければ。仕込み等は自分で仕込んでくるものとする。全体合わせの加、自らの仕込みも開り、授業の欠席等で演奏ができない学生は全体あわせに参加させない可能性もある。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	各パートごと課題曲のリーディング										
第2回	楽器陣のみで曲の全体合わせ										
第3回	Vo. と共に全体合わせ										
第4回	男子、女子各1曲ずつ合わせ										
第5回	楽譜通りに演奏、足らないスキルの向上										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
アドバンスレッスン2-b-G t	
第6回	楽譜でのリーディング能力の的認
第7回	メトロノームを使ったり、よりプロの実践的アンサンブルを加える
第8回	エフェクター等により音作りの面でも楽曲に対する対応力の向上
第9回	アッパーストラクチャートライアドの理解
第10回	Vo. と共に全体合わせ、バランスを確認する。パフォーマンスを向上させる
第11回	課題曲の中から各自曲を決め、ソロの表現力を向上させる
第12回	Voと合わせパフォーマンスを向上させ、後期試験に向ける
第13回	Voと合わせパフォーマンスを向上させ、最終チェックリハーサル
第14回	後期試験発表会 会場リハーサル
第15回	後期試験発表会

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
アドバンスレッスン2-b-Key											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	杉山泰			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
この科目を受講する学生は、鍵盤楽器におけるあらゆる基礎となる知識、奏法について学び、プロとして必要な演奏技術と、プロとして最低限の読譜力を養うのが目的です。実際には各楽器（ギター・ベース・キーボード・ドラム）、ヴォーカリストコースの学生と同じ課題曲を練習し、アンサンブルの力・ステージングを学んでいく。											
到達目標											
この科目では、学生が鍵盤楽器の様々なジャンル（ポップス・ロック・ソウル、R&B、ジャズなど）奏法を学ぶ事と、曲づくり、アレンジにおいて必要なことを鍵盤を使って学び実践して行く事を目標とします。											
授業方法											
この授業では、鍵盤楽器を使って様々な音楽的素養と、演奏技術、そして特に読譜力を養うのが主な目的であり、それに伴い、作曲、アレンジ技術も身につける。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	前期総復習1										
第2回	前期総復習2										
第3回	主に洋楽と邦楽のリーディング的思考の相違と、テンション感の使い分け 応用										
第4回	ジャジーなサウンドの楽曲のコード分析と初見 応用										
第5回	初見をする上での注意点										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
アドバンスレッスン2-b-Key	
第6回	プロ的实践譜面の初見 課題曲1
第7回	プロ的实践譜面の初見 課題曲2
第8回	初見をする上での注意点
第9回	ジャズの初見とインプロ 解説 注意点
第10回	ジャズの初見とインプロ 課題曲を使用して実施
第11回	インプロしながらの実践的初見 読譜の練習
第12回	インプロしながらの実践的初見 課題曲を演奏
第13回	総復習 前後期に学んだ内容の振り返り
第14回	総復習 課題曲への取り組み
第15回	まとめ 演奏

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
アドバンスレッスン2-c-B a											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	上野 一郎			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
この科目を受講する学生は、音楽活動を通じて今後の社会人として求められるコミュニケーション能力と、音楽家としての自己表現力を高めることによって自己鍛錬の必要性と喜びを学び、また他者との価値観の相違の認識と受容を繰り返すことで、幅の広い人間性と社会性を持つことの重要性を理解することが目的である。											
到達目標											
この科目では、自身の楽器をより専門的に表現力や判断力を高めることで創造的に表現できる力を身に付け、自己表現の喜びと他者との共感力を養うことと、日々の自己鍛錬の計画と実行の積み重ねによって得られるもののがいかに重要であるかを理解することを目標とする。											
授業方法											
この授業では、毎週学生の理解度をヒヤリング・チェックしながら進める。他者の問題点が自己の問題と共通あるいは類似のことも多く、問題解決しながら進めていく。授業中の積極的発言も自己表現の一つと考え、疑問点や問題点をできる限りその場で解決しながら行っていく。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、受講の態度や出席数はもちろん基本的なあいさつやマナーなど一人の社会人としてあるべき行動を求める。授業内の問題点は必ず質問またはメモに残して解消していくこと。授業内で配布されたプリント等は常時持ってくること。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	8分7拍子バンプとマイナーペンタトニック										
第2回	リディアン♭7th・スケール										
第3回	【Chicken】テーマと16ビートのR&Bフレーズ										
第4回	コードチェンジに沿ってコードトーンを弾く										
第5回	ミクソリディアン・スケールとマイナーペンタトニックのコードチェンジ										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース	
アドバンスレッスン2-c-B a	
第6回	【Bomp Me】速い8ビートのオルタネート・ピッキング(1)
第7回	速い8ビートのオルタネート・ピッキング(2)
第8回	【Feel Like Makin' Love】テーマを弾く
第9回	ドリアン・スケールとリディアン・スケール(1)
第10回	ドリアン・スケールとリディアン・スケール(2)
第11回	【Spain】ベーシックバックイングとテーマを弾く(1)
第12回	ベーシックバックイングとテーマを弾く(2)
第13回	Gリディアン・スケール
第14回	コード進行に沿ってスケールチェンジする
第15回	コード進行に沿ってコードトーンを追う

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
アドバンスレッスン2-c-D r											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	麻生 祥一郎			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
ドラマーがアンサンブル内でやるべきことは多岐に渡ります。アンサンブル上、最初に音を出す楽器であることが多い為、他の楽器をまとめる基礎知識、基礎力が重要となる。基本的な技術力と応用力を習得し、行き来きすることができる音楽家になることをめざす。アンサンブルの中でのリズムセクションの中心的役割を担い、即興的な対応力を身につけ、アンサンブルをよりよくするテクニックを身に着ける。											
到達目標											
フットワークのバリエーション、シンコペーション、チェンジアップなど、自分自身のドラムフレーズを個性あるプロ仕様に変えるノウハウを伝授し、それを身に着ける。現場でよりよいプレイをするには、現場を良く知ることが重要。なんども実践的な発表を繰り返し、自己のウィークポイントを確認しながら進めていく。講師のみならず、仲間からのフィードバックも真摯に受け止め、自らのドラミングに生かしていく。すべてのフレーズを楽譜を見ながら叩けるようになり、読譜して音を出せるドラマーになる。											
授業方法											
ステージに設置されたドラムでライブさながらの発表を行う。講師だけでなく、仲間からのフィードバック、そして、自らがどのような気持ちで叩いたのか？演奏の奥にある、気持ち面も重要視していく授業。練習台によるスティックコントロール、ドラムセットによるグルーヴとフィールの習得、他の楽器とのアンサンブルによるリズムセクション形成方法と即興的アプローチのトライ。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
出席率を重要視します。続いて個々の目標に積極的に向かい向上しているか、個人練習の時間をしっかり取れているか。ドラムの上達には日々の個人練習も重要である。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	フットワークの強化 16分音符のフレーズの習得										
第2回	フットワークの強化 サンバキックの習得										
第3回	フットワークの強化 ルンバキックの習得										
第4回	フットワークの強化 3連符の習得										
第5回	教則本シンコペーションを使った練習法 16分音符										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
アドバンスレッスン2-c-D r	
第6回	教則本シンコペーションを使った練習法 基本パラディドル
第7回	教則本シンコペーションを使った練習法 応用パラディドル
第8回	教則本シンコペーションを使った練習法 3連符のシンコペーション
第9回	2分音符から32分音符までを正確に叩き分ける
第10回	8分音符フレーズ内で休符の位置をひとつずつずらす、フレーズ内の休符感覚を養う
第11回	16分音符フレーズ内で休符の位置をひとつずつずらす、フレーズ内の休符感覚を養う
第12回	フラムの感覚を習得する。フラムを入れてさまざまなフレーズを叩く
第13回	変拍子 5/4 、5/8フレーズの習得
第14回	変拍子 7/4 、7/8フレーズの習得
第15回	第1回から第14回までのフレーズを入れたフレーズを作曲し、発表する

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
アドバンスレッスン2-c-G t											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	鈴木一義			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の楽器技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
プロギタリストとして成長していき、その前段階のテクニックを習得する講義。様々なジャンルの楽曲、ジャズの複雑なコード進行に対しても素早く反応して適切なフレーズを弾けるようになる。ジャズ特有のスウィング感など、一人では中々体得できないノウハウを伝授する。左手と右手のタイミングが自らのトーンを決定することもあり、個性あるトーンが出すことを目的としてテクニックの習得を目指す。自分自身のパートアレンジは当然だが、他の楽器への幅広いアレンジ能力を磨き、将来の音楽に生かしてゆく。											
到達目標											
メロディアスなソロ・フレーズを作れるようになること、また、それを自分らしく表現し弾くことを目標とする。想定されたアレンジメントから変更された楽曲になったとしても、落ち着いて対応できるよう多くの知識の習得を目指す。状況に対しても焦らず対応できるミュージシャンになることを目標とする。楽曲に対して色々なスケール、フレーズ、パターン等を自由に組み合わせられることは、ギタリストとしての個性に繋がります。地道な作業であるが、日々のレッスン、そして、自宅での練習方法など自ら上達するマインドを獲得することも目標とする。											
授業方法											
さまざまなジャンルの課題曲に沿って、コード・アナライズ、スケール等を説明し、耳で聞いている音が、実際にどういう音階で構築されているのか、どういう和音構成で作られているのか、また、音色による感じ方の違いなど、常にリスナーを意識した音楽を届けるギタリストを育成していく。参考フレーズを元にソロを弾けるように反復練習を繰り返す。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
必ず五線紙を用意し、授業内容のメモを取ること。新しい事を身に付ける為には、相当量の練習が必要であり、授業以外の時間にも出来る限り多く練習して下さい。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	ナチュラルマイナースケールとペンタトニックスケールの構成音を比較する										
第2回	スケール上の9th, b6thを意識したアドリブフレーズを理解する										
第3回	ミクソリディアンスケールの構成音を覚える、さまざまなポジションの構成音を覚える										
第4回	さまざまなポジションでミクソリディアンスケールアドリブソロを弾く										
第5回	ハーモニックマイナースケールの構成音を覚える										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
アドバンスレッスン2-c-G t	
第6回	ハーモニックマイナースケールを使った様々なフレーズを理解する
第7回	ペントニック的オルタード・フレーズを理解する
第8回	メロディック・マイナーからオルタード・スケールを覚える
第9回	オルタードスケールを使用出来るコード進行を想定してアドリブを弾く
第10回	コンビネーション・オブ・ディミニッシュスケールの構成音を理解する
第11回	コンビネーション・オブ・ディミニッシュスケールを使用できるコードを進行を理解する
第12回	ツー・ファイブ・ワンの練習
第13回	ダブル・ドミナント・モーションの練習
第14回	ブルースコード進行、有名楽曲の伴奏に合わせてアドリブソロを弾く
第15回	オルタードスケール、コンビネーション・オブ・ディミニッシュスケールを使用したアドリブソロを弾く

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
アドバンスレッスン2-d											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	鈴木一義/宍倉聖悟 上野一郎/二本柳/麻生祥一郎			実務 経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。 他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
スコアリーディング向上、アンサンブル向上、各パート楽曲に合わせアンサンブルを実践しながらスキルを向上する授業。奏でているフレーズのリズム、音符の長さ、表現方法など意識できるようにする。他の楽器と合わせる時には、全員がリードスコアを読み、小節の進行、リビートマークなどの臨時記号に対応できる現場能力を育成する。各パートと合わせることで、自分以外の楽器への理解も深まることを目的としている。											
到達目標											
3週間に1回、全コースとアンサブルの授業を行う。同じ楽曲であるが、さまざまなプレイヤーと合わせる事で、現場への対応力を養う。同一譜面を読んでも、プレイヤーによって奏でるフレーズは十人十色であることを知る。その中で自分の個性を発揮できる経験と知識、スキルを得ることを目標とする。この授業はプレイヤーコース内のコミュニケーションを図る上でも重要な授業であり、コミュニケーションがスムーズなセッションほどクオリティーがあがることも経験として知る授業となっている。											
授業方法											
この授業では、3週分使い2曲を仕込む。各パート1週目男子曲、2週目女子曲（入れ替わり可能性有り）3週目全体合わせとする。3週目にはライブ形式で演奏を行い。演奏者ではないプレイヤーは客席で演奏を視聴し、演奏者たちにコメントをする。即時にフィードバックが帰ってくる授業。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、全ての授業を出席しなければ。仕込み等は自分で仕込んでくるものとする。全体合わせの加、自らの仕込みも開り、授業の欠席等で演奏ができない学生は全体あわせに参加させない可能性もある。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	各パートごと課題曲のリーディング										
第2回	楽器陣のみで曲の全体合わせ										
第3回	Vo。と共に全体合わせ										
第4回	男子、女子各1曲ずつ合わせ										
第5回	楽譜通りに演奏、足らないスキルの向上										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
アドバンスレッスン2-d	
第6回	楽譜でのリーディング能力の的認
第7回	メトロノームを使ったり、よりプロの実践的アンサンブルを加える
第8回	楽器陣のみで曲の全体合わせ
第9回	男子、各1曲ずつ合わせ
第10回	女子、各1曲ずつ合わせ
第11回	楽譜通りに演奏、足らないスキルの向上
第12回	楽器陣のみで曲の全体合わせ
第13回	男子、女子各1曲ずつ合わせ
第14回	後期試験発表 ステージパフォーマンス リハーサル・ステージング
第15回	後期試験発表 ステージパフォーマンス

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
アドバンスレッスン2-Ke y											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	二本柳一明			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
音楽の各ジャンル;ロック、ファンク、ライトファンク、ブルース（メジャー・マイナー）、ボッサ、スウィングなど多様なスタイルに応じた即興演奏を身に付ける。テーマ演奏の為の譜面の確認 コード進行の確認 様々な記号を含め、譜面を理解し曲を覚え、アンサンブルができるように指導する。課題曲によってボーッシングやアドリブを充実させていく。											
到達目標											
2 年次は学校で用意した課題曲を演奏できる様にすること。Chameleon、Freeway Jam、Cantaloupe Island、Sunny、Led Boots、he Chicken、Spain、Feel Like Makin’ Loveなど様々なジャンルの課題曲でアンサンブルができるよう指導する。											
授業方法											
各自ピアノ（キーボード）を一台ずつ用意して講師と共に演奏して学ぶ。 4 リズムアンサンブルの授業の準備内容を主に勉強するが、ソロピアノでのインプロビゼーションも並行して学ぶ。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
課題曲に対する下準備。譜面は忘れずに必ず持ってくる。キーボードはコード進行でボーッシングの為に譜面を読んでおく必要があります。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	コンボジットモード										
第2回	課題曲を使って実践										
第3回	ナチュラル1 1 thと＃1 1 th										
第4回	ナチュラル1 3 thとb 1 3 th										
第5回	ツーファイブとハーモニックツーファイブ										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
アドバンスレッスン2-Key	
第6回	コンボジットモードを使ったアドリブフレーズの作り方
第7回	コンボジットモードを使ったアドリブフレーズの作り方
第8回	アッパーストラクチャートライアドの解説
第9回	アッパーストラクチャートライアドのボーッシング
第10回	様々なコード進行の中でのアッパーストラクチャートライアドのボーッシング
第11回	課題曲を使ってアッパーストラクチャートライアドのボーッシング
第12回	スケールアウトの解説
第13回	スケールアウトの実践
第14回	1年2年で習得した内容のまとめ
第15回	課題曲を演奏・評価